

令和7年度「全国学力・学習状況調査結果」概要 ～阿南市小中学校における学力の傾向と対策について～

阿南市教育委員会

この資料は、令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、阿南市の子どもたちの学力や学習状況の傾向をまとめたものです。

1 調査の概要

- 調査目的
 - ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・この取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒
- 調査事項及び手法
 - ・教科に関する調査：国語、算数・数学、理科
 - ※次の内容を一体的に問うもの
 - （常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等）
 - （知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力）
 - （様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等）
 - ・質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問
 - ※本年度の主な調査項目
 - （挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）
 - （地域や社会に関わる活動の状況等）
 - （ICTを活用した学習状況）
 - （主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況）
 - （学習に対する興味・関心や授業の理解度等）
- 実施日時 令和7年4月17日（木）
 - 【小学校調査】
 - 1時限目（国語：45分） 2時限目（算数：45分） 3時間目（理科：45分）
 - 児童質問紙（20～40分）
 - 【中学校調査】
 - 1時限目（国語：50分） 2時限目（数学：50分）
 - 理科はオンライン方式（50分）で実施
 - 生徒質問紙（20～45分）

2 小学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 2 算数では、正答率が全国平均よりやや上回りました。
- 3 理科では、正答率が全国平均とほぼ同じでした。
- 4 無解答率は、国語・算数・理科ともに全国平均より低くなっていました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

○調査問題の主な内容

- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、図表を用いるなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
- ・漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

◆成果が見られる点

- ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができます。また、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することもできています。
- ◇「読むこと」に関する問題では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の文体を捉えることができます。
- ◇「我が国の言語文化」に関する問題では、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができます。

◆課題が見られる点

- ◇事実と感想、意見等の関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題があります。
- ◇目的に応じて、文章と図表を結びつけるなどして、必要な情報を見つけることに課題があります。
- ◇集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合うことに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇日常生活の様々な場面で、自分の考えをより良く伝える方法の工夫を意識させる必要があります。
- ◇文章と図表を目的に応じて結びつけたり、必要な情報を取り出して説明したりするなど、資料を活用した表現の工夫を意識させる必要があります。
- ◇様々な言語活動の中で、事実や理由等の要点を押さえて全体の構成を捉え、要旨を把握する工夫を意識させる必要があります。

□ 算数

○調査問題の主な内容

- ・日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え考察できるかどうかをみる。
- ・図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や図形の構成の仕方、図形の計量について考察できるかどうかをみる。
- ・数の表し方の仕組みや数を構成する単位に注目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察できるかどうかをみる。
- ・日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察できるかどうかをみる。

◆成果が見られる点

- ◇「データの活用」に関する問題では、棒グラフから項目間の関係を読み取ることができています。
- ◇「数と計算」に関する問題では、示された事例から、必要な情報を選び、数量の関係を正しく式に表して計算することができています。
- ◇「変化と関係」に関する問題では、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができています。

◆課題が見られる点

- ◇目的に応じて適切なグラフを選択し、数量の増減を判断してその理由を言葉や数を用いて説明することに課題があります。
- ◇分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて説明することに課題があります。
- ◇問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて説明することに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇数量の変化や求め方などについて、式や数、言葉を用いて説明したり記述したりする活動が必要です。
- ◇分数の加法について、単位分数の意味を理解し、共通する単位分数を見だして整数の加法に帰着して考察する活動が必要です。
- ◇日常生活において、伴って変わる数量を見つけ、目的に応じて適切なグラフで表す活動が必要です。

□ 理 科

○調査問題の主な内容

- ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、解決するための実験の方法を発想したり、結果を基に考察したりしながら、問題を解決できるかどうかをみる。
- ・自然の性質や規則性を適用したものづくりについて、学習したことを活用したり、解決の方法を発想したりしながら、問題を解決できるかどうかをみる。
- ・花のつくりや受粉について理解できているか、発芽の条件について解決の方法を発想しながら問題を解決できるかどうかをみる。
- ・水の温まり方について、解決の方法を発想しながら問題を解決できるか、水に関する知識を概念的に理解しているかどうかをみる。

◆成果が見られる点

- ◇赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができています。
- ◇結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での実験結果を予想して、表現することができています。
- ◇電流がつくる磁力について、電磁石の強さはコイルの巻き数によって変わることの知識が身についています。

◆課題が見られる点

- ◇身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引きつけられる物についての知識が身についているかどうかについて課題があります。
- ◇電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することに課題があります。
- ◇実験や観察の条件について、差違点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇実験器具の基本操作等、実験や観察の基本的技能を習得する活動が必要です。
- ◇条件を変えた実験や観察等をとおして、新たな問題を見だし、探究する活動が必要です。
- ◇既習事項と結果の関連付けや、言語を介した科学的な考察の活動が必要です。

(2) 質問紙調査

- ◇「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「新聞を読んでいますか」「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。

- ◇ 「算数の授業の内容はよく分かりますか」「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇ 「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。
- ◇ 5年生までの授業で、学んだことを生かして自分の考えをまとめたり、自分の考えがうまく伝わるように工夫したりすることについての質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。

3 中学校について

(1) 学力調査

① 全体的な傾向

- 1 国語では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 2 数学では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 3 理科では、正答率が全国平均をやや下回りました。
- 4 解答欄に記入がない無解答率は、全国平均よりやや高くなっていました。

② 結果分析等の概要

□ 国語

○調査問題の主な内容

- ・文脈に即して漢字を正しく使い、目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること
- ・書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考え、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと
- ・話し方の工夫を捉え、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること
- ・自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して話の構成を工夫し、資料等を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること
- ・表現の効果について、根拠を明確にして考え、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること
- ・事象や行為を表す語句について理解し、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること
- ・読み手の立場に立って、表記、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること

◆成果が見られる点

- ◇目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができています。
- ◇表現の効果について、根拠を明確にして考えることができています。
- ◇文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができています。

◆課題が見られる点

- ◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題があります。

◇資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題があります。

◇文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題があります。

◆指導改善のポイント

今後の学習指導に当たっては、根拠を明確にして考えたり表現したりする指導や、自分の考えを表現の効果を考えて描写したり、与えられた条件に合わせてまとめたりする指導の充実が必要です。

□ 数学

○調査問題の主な内容

- ・事象の特徴を的確に捉え、文字を用いて数量の関係や法則などを考察し、解釈したことを数学的に表現できるか、数量を文字を用いた式で表すことができるかをみる。
- ・事象の特徴を的確に捉え、関数を用いて考察し、数や式、図、表、グラフなどを活用して数学的に処理することができるかをみる。
- ・不確定な事象についてデータに基づいて考察し、数や式、表、グラフなどを活用して数学的に処理できるか、事象を数学的に解釈し、その根拠を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる。
- ・数学的に表現したことを事象に即して解釈し、見いだした事柄を説明したり、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明したりすることができるかをみる。
- ・事象の中にある関数関係を見いだして考察し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる。
- ・図形の性質を考察する場面において、統合的・発展的に考察したり、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるかをみる。
- ・素数や多角形の外角などの意味、数量を文字を用いた式で表すことなど、基本的な内容について理解しているかをみる。

◆成果が見られる点

◇多角形の外角や相対度数の意味について理解できています。また、数量を文字を用いた式で表すことができます。

◇必ず起こる事柄の確率について理解し、事柄が常に成り立つとは限らないことと説明する場面で、反例をあげることができています。

◇事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができています。

◆課題が見られる点

◇式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題があります。

◇統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善する

ことに課題があります。

◇ある事柄が成り立つことを、構想に基づいて証明することに課題があります。

◆指導改善のポイント

◇発表や話し合い等の場面で、根拠を基に数学的に説明する習慣を身につけさせることが大切です。

◇問題解決の過程を発展的に捉えて、条件を変えた場合について、新たな性質を見いだす学習の取組が大切です。

◇合同条件などの証明に必要な条件の理解とともに、構想を基に、根拠を示しながら筋道立てて説明する学習の取組が必要です。

□ 理 科

○調査問題の主な内容

- ・日常生活や社会と関連付けながら、水に関する事象を多面的、総合的に捉え、理科の見方・考え方を働かせて、これまで学習した理科の知識及び技能を活用することができるかどうかをみる。
- ・科学的に探究する場面において、量的・関係的な見方を働かせて、音の高さや電気、気体等に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。
- ・加熱を伴う観察、実験において、正しい応急処置を理解しているかどうかをみるとともに、粒子のモデルを活用して、質的・実体的な見方を働かせて、化学変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。
- ・牧野富太郎のスケッチを取り上げ、共通性・多様性を見方を働かせて、植物の体のつくりと働きに関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。
- ・物質を体内に取り入れるための体のつくりについて、共通性・多様性を見方を働かせて、これまでに学習した理科の知識及び技能を活用することができるかどうかをみる。
- ・大地の変動について、時間的・空間的な見方を働かせて、大地の成り立ちと変化に関する知識及び技能を活用することができるかどうかをみる。
- ・気圧に関する身の回りの事象について、状態変化や圧力に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

◆成果が見られる点

◇情報を収集してまとめを行う学習の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識や技能が身についています。

◇身近な電化製品の電気回路について、回路の抵抗に関する知識が、概念として身についています。

◇気体の性質に関する知識が概念として身についています。

◆課題が見られる点

◇水の中の生物を観察する場面において、生命を維持する呼吸の働きに関する

知識が概念として身につけていないことに課題があります。

- ◇考察をより確かなものにするために、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題があります。
- ◇時間的・空間的な見方を働かせて、様子と結果を関連付けて検討した内容を、理科の知識を活用して表現することに課題があります。

◆指導改善のポイント

- ◇既習事項を概念として身につけられるよう、基礎基本の定着を図ることが必要です。
- ◇考察をより確かなものにするためにどうすればよいかを生徒が考える活動とおして、予想される結果について理科の知識を活用して適切に説明する活動が必要です。
- ◇身近な事象を、時間的・空間的な見方を働かせて考察し、実際の様子や観察した結果を関連付けて、理科の知識を活用して表現する活動が必要です。

(2) 質問紙調査

- ◇「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を上回っています。
- ◇「1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。
- ◇「1，2年生のときに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均を下回っています。

4 今後の対策について

- 1 各校ごとに調査結果を分析し、自校の課題を把握するとともに、改善策について全教職員の共通理解を図り、組織的に学力向上に向けた取組を推進します。
- 2 GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末等、ICTの有効活用を一層推進するため、教員研修の実施や大型提示装置の利活用など、ソフト・ハードの両面からの支援を図ります。
- 3 図書館サポーターの派遣や、学校図書費の充実等により、子どもの読書活動の活性化を図り、問題解決能力育成の基礎となる読解力の向上を図ります。
- 4 市の指定研究事業の活性化を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するための、ICTを活用した授業改善に関する研究を進め、その成果を普及することで、市全体の教員の授業力向上を図ります。
- 5 基本的な生活習慣や家庭学習の充実等に向けて、家庭との連携を図ると共に、各校のHPや学校だより等による情報提供に取り組めます。

